



<b>東京部会(第34回)</b>	
日時:	2010年11月30日(火) 19:00-21:15
場所:	日本大学経済学部3号館(図書館)4階会議室
参加者:	篠原(同志社大)、加藤(日大)、中川(日大)、浅田(日大)、小巻(日大)、土井(日大院)、川西(上智大)、杉田(千葉西高)、高橋(桜修館中等教育)、升野(大妻中高)、山崎(北海道豊富高)、横山(本郷中高)、鈴木(経済教育センター)、榊原(東証)、石山(東証)、中沖(清水書院)、神尾(第一学習社)、宮尾(筑波大)[順不同]
<p><b>【内容要旨】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>篠原先生より、11月13日の福井でのワークショップの報告と、12月4日の年次大会の内容(特にシンポジウム)の紹介があり、また今後のワークショップの予定が以下のように提示された。 福岡(1月20日)、鹿児島(2月5日)、札幌(2月20日)、宮崎(2月25日)。</li> <li>入試プロジェクトについて、新井先生が準備された「11月東京部会報告」と「入試プロジェクト参考」の資料が配布された。</li> <li>石山、榊原両氏(東証)より、平成22年度「金融経済教育フォーラム」に関する資料が配布され、特に12月30日の東京証券取引所でのフォーラムと1月6日の宇都宮でのフォーラムへの参加の呼びかけがなされた。</li> <li>川西論上智大学経済学部教授によるプレゼン「仮想取引体験授業の有効性と問題点—行動経済学的な視点から—」があり、学生たちに金融取引の仕組みをゲームによって理解させる試みの説明があった。パワーポイントのプレゼンに加えて、その要旨および実際に学生に配布されたワークシートのコピーが配布され、どのような具体的なステップをとって、学生たちに金融取引のやり方、金融市場での利子率の決定、取引による満足度の上昇を分らせるかが詳しく解説された。最後にこのような実験のプラス面と同時に課題(例えば、面白い授業に終わらず、いかに正しい教訓を学ばせるかが問題)もいくつか指摘された。 プレゼンの後の質疑応答と議論では、これを高校生対象に行うための工夫や修正が提案された。</li> <li>宮尾より、ゲーム理論に関する簡単な実験のやり方(じゃんけんによる繰り返しゲームで「囚人のジレンマ」を避けて高得点を上げる戦略について)の説明があった。詳細は以下のリンク参照： <a href="http://miyao-blog.blog.so-net.ne.jp/2009-11-29">http://miyao-blog.blog.so-net.ne.jp/2009-11-29</a> さらに、国際教養大学で実施した農業自由化についてのアンケート調査の要旨が配布され、日本人学生の答え(主に農業保護支持)と留学生の答え(主に自由貿易支持)が対比された。そして、この違いの理由の一端は、中高の社会科で市場競争のプラス面があまり説明されず、マイナス面が強調されているからかもしれないとの推測を行った。これに対して特に現場の中高の先生がたから議論や疑問が提示されたが、時間切れとなり、次回さらに議論することとなった。 (文責：宮尾尊弘)</li> </ol>	
<p>次回開催予定：1月25日(火)19:00～21:00、日大経済学部3号館4階会議室。          主な議題としては、12月の大会の総括と2011年の予定、および11月東京部会で残された課題を議論。</p>	